

営農だより

中干し後は
常に田面が湿った状態の
飽水管理を
徹底しましょう!!



7月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～

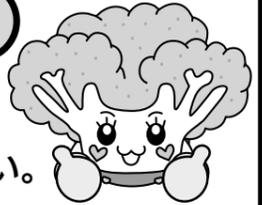
- 7月上旬までの畦畔の追加除草
- 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
- 中干し後から出穂までの約1ヶ月の飽水管理

水管理のポイント!

- ① **間断通水** を徹底し、根の活力を維持してください。
- ② **通水は夕方か朝方** とし、高温となる日中の湛水は根を傷めるので避けてください。
- ③ **集落ぐるみで計画的な水利用に努めてください。**
(溝切りの溝に水を通すなど、効率的な水利用に努めましょう)

※台風の接近や通過が予想される場合は、フェーンや強風による被害を軽減するため、事前に圃場への入水を行ってください。(台風の通過後は速やかに排水してください)

出穂前・開花期前後は
最も水を必要とします



コシヒカリの出穂予想と穂肥施用(10a当たり)

出穂予想 **7月28日～30日**

※今後の天候次第で変動することがあります。

◎有機入りいしかわライト550(15-5-10)の場合

穂肥1回目	7月12日～14日	穂肥2回目	7月20日～22日
-------	-----------	-------	-----------

◎有機入りいしかわ穂肥一発055(20-5-15)の場合

1 回	7月12日～15日
-----	-----------

※葉色が濃い場合は2～3日施用日を遅らす。

〈コシヒカリの穂肥1回目の診断目安〉

1 株 茎 数	葉 色	施用時期(幼穂長)	有機入りいしかわライト550	有機入りいしかわ穂肥一発055
少ない(21本以下) 条間が奥まで見える	適正 3.5	標準(15mm)	18kg	24kg
	やや濃い 4.0程度	2日遅く(20mm)	15kg	22kg
適 正 (22～25本) 条間が手前30～50m くらいまで見える	やや薄い 3.0程度	2～3日早く(10mm)	16kg	18kg
	適正 3.5	標準(15mm)	14kg	18kg
多 い (26本以上) 条間が見えない	やや濃い 4.0程度	2～3日遅く(20～30mm)	10kg	16kg
	適正 3.5	標準(15mm)	9kg	16kg
	やや濃い 4.0程度	2～3日遅く(20～30mm)	8kg	14kg
	濃い 4.0以上	穂肥1回目は施用しない。穂肥2回目の時期に葉色、草丈の状態を見て施用。		

〈穂肥2回目の目安〉 1回目施用の7日後に基準量(15kg/10a)どおりに施用する。
(有機入りいしかわ穂肥一発055を1回目で施用した場合、2回目の施用は必要ありません)

※地力が高い圃場や前年倒伏した圃場では、上記目安より2～3kg/10a減らしましょう。

※圃場毎に幼穂長、生育状況を確認しましょう。

※草丈が長くなっている圃場では、倒伏防止のため1回目の穂肥の施用を過剰とにならないように注意しましょう。

※**基肥一発肥料を施用している場合は必要ありません。**

※今後の天候次第で変動することがあります。

ひやくまん穀の出穂予想と穂肥施用(10a当たり)

出穂予想 **8月4日～8日**

★現時点で幼穂は確認されていません。圃場毎に幼穂長、生育状況を確認しましょう。

◎有機入りいしかわライト550(15-5-10)の場合

穂肥1回目	7月15日～19日	穂肥2回目	7月25日～29日
-------	-----------	-------	-----------

◎有機入りいしかわ穂肥一発055(20-5-15)の場合

1 回	7月12日～16日
-----	-----------

※葉色が濃い場合は2～3日施用日を遅らす。

〈ひやくまん穀の穂肥1回目の診断目安〉

葉 色	幼穂長	有機入りいしかわライト550	有機入りいしかわ穂肥一発055
やや薄い 3.5程度	2mm	17kg	35kg
適正 4.0		15kg	33kg
やや濃い 4.5程度		13kg	30kg

〈穂肥2回目の目安〉 1回目施用の10日後に基準量(25kg/10a)どおりに施用する。
(有機入りいしかわ穂肥一発055を1回目で施用した場合、2回目の施用は必要ありません)

※地力が高い圃場や前年倒伏した圃場では、上記目安より2～3kg/10a減らしましょう。

※草丈が長くなっている圃場では、倒伏防止のため1回目の穂肥の施用を過剰とにならないように注意しましょう。

※**基肥一発肥料田の上乗せ追肥→7/15以降の葉色が4以下の場合、出穂10～7日前に有機入りいしかわライト550で15kg/10a(窒素成分で2kg/10a)施用する。**

生産履歴記録簿を記帳しましょう!

7月10日までの雑草地の除草で斑点米カメムシ類の生息場所を減らしましょう。

基幹防除(粒剤の場合)

《ゆめみづほ》

薬剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	防除時期	適用病害虫名	使用回数	使用方法
イモチエース キラップ粒剤	3kg	収穫35日前まで	出穂前1週間	穂いもち病・紋枯病・ツマグロ ウンカ類・カメムシ類	1回	湛水状態で均一散布 4～5日は落水やかけ流しはしない

《コシヒカリ》

薬剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	防除時期	適用病害虫名	使用回数	使用方法
フジワラップ 粒剤	4kg	収穫30日前まで	出穂前1週間	穂いもち病・ニカメイチュウ ウンカ類・カメムシ類	2回	湛水状態で均一散布 4～5日は落水やかけ流しはしない

随時防除

対象病害	薬剤名	散布量 (10a当たり)	使用時期	防除時期	注意事項
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	3～4kg	出穂10日～15日前まで	出穂前の 予防散布	常発田で散布
いもち病	ブラシン粉剤DL	4kg	収穫7日前まで	発生確認時 直ちに散布	2回以内 但しノンブラスト レバリダ粉剤使用時は1回
紋枯病	バリダシン粉剤DL	4kg	収穫14日前まで	7月上旬 前年多発圃場	株元に薬剤が十分に 届くように散布する
イネアオムシ	トレボン粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	発生確認時 直ちに散布	発生時に散布
カメムシ類	スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	8月中旬	カメムシ多発圃場に シャクで投げ込み散布

※ゆめみづほでエバーゴルフフォルテ箱粒剤を使用していない場合は、紋枯防除を実施して下さい。

※前年度、稲こうじ病が発生した圃場では、予防散布を徹底して下さい。

コシヒカリの 倒伏指標

時点	イネの様子・型
出穂25日前	●主幹上位2葉目(止葉から3葉目)の葉身長が42cm以上の場合
出穂10日～15日前	●草丈が90cm以上の場合 ●第5、4節間が合わせて12cm以上の場合

倒伏軽減剤

倒伏は、品質の低下、収穫のロスを招き生産面では大きなマイナス!!

倒伏が懸念される場合は、最後の手段として倒伏軽減剤の散布を検討する。

薬剤名	散布量(10a)	使用時期	使用回数	散布時の注意事項
スマレクト粒剤	2～3kg	出穂前10日～15日 (厳守)	1回	○湛水状態で均一に散布する。 ○散布後5日間は、落水やかけ流しはしない。

～うまい・きれいな加賀米づくりに向けて～

幼穂形成期以降は飽水管理で根を健全に

収量・外観品質・食味の三拍子揃ったお米を生産するためには、登熟を向上させることが重要です。

幼穂形成期以降(コシヒカリ:7月6日以降)は
間断通水を実施し、土壌を飽水状態に保って下さい。

特に出穂期から7日間程度は稲体の水分蒸散量が
最も多くなるので、通水管理を徹底して下さい。

最高分けつ期から幼穂形成期にかけては、最後にたて
張りする根が伸びてゆき、発根が最も多くなる時期です。
出穂期以降は新根の発生はありません。

現在ある根を刈り取り時期まで維持することが、登熟
向上、収量・品質の向上に欠かせません。

